兵庫県のタマムシ(1)

高橋 寿郎

タマムシ科は全世界に約15,000種を産するが，その大部分は新旧両大陸の熱帯地方に集中しており，日本には6亜科27属204種を産し(秋山,大桃,1997)暖地に多い．ただ日本に産するタマムシは大型種は少なく小型のナガタマムシ属やチビタマムシ属が大部分を占め，あまり人目を惹く種類は少ない．しかし大部分の種類は各種の樹木の幹また枝，場合によっては葉を食害し，森林害虫または果樹害虫として人間との関係も少なくない．

兵庫県下に産するタマムシはどんなものがいるのだろうか．一応まとめて見ることにした．浅学未熟者のこと故大きな誤りとか脱落があるかと思われる．御叱正，御教示頂くことが出来れば幸いである．

やや長くなりそうなので分割発表させて頂く．

Family Buprestidae Eschscholtz, 1829

タマムシ科

Subfamily Chalcophorinae Lacordaire, 1857

ウバタマムシ亜科

Genus Chrysochroa Solier, 1833

ルリタマムシ属

1．*Chrysochroa fulgidissima* (Schonherr, 1817)

タマムシ(ヤマトタマムシ)

かつて江崎悌三博士は Kaempfer, History of Japan(1727年刊)の中のセミの図を示され(新昆虫 Vol. 5, No. 11, p. 21, 1952)「その右下に"金亀 Fanmio"は実はハンミョウではなくタマムシであるが，これは箱の中にでも保存してあったものを寫眞したものらしい」と解説している．即ち Kaempfer は1727年に日本のタマムシをタマムシとしてではなくハンメウとして図説していたことになる．

秋山黄洋，大桃定洋は Motschulsky が"Korea, I. Zusima"産を Lectotype として *Chrysochroa coeruleophala* Motschulsky として記載(Etud. Ent. X, p. 6, 1861)された種がこのタマムシに当たることを写真で♂♀を示して解説している(Jpn. J. syst. Ent. Vol. 1, No. 2 : 175-176, 1995)，そして Lectotype 並びに Paralectotype 標本は Tsushima Island, Nagasaki Prefecture, western Japan 産であって not Korea と記している．

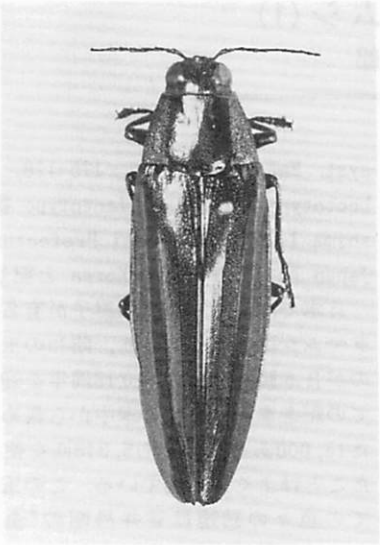
日本では法隆寺の玉虫厨子が有名で，古くからタマムシは知られており，昭和の玉虫厨子というのが日本鱗翅学会の創立15周年を迎えるに当たっての記念事業として日本中から集め，その集まった15,000あまりのうち5,348匹を使って複製されたことはよく知られている．この玉虫厨子についての色々の話題は笠井昌昭の"虫と日本文化"(1937)に詳しい．

寺島良安の"和漢三才図会"巻第53に"吉丁虫(たまむし，キッティンチョン)(俗に玉虫という，正徳二年～五年)"について詳しく解説があり，"摂州の有馬に多くいる"といった解説も見られる(和漢三才図会7．東洋文庫471, 1987．和漢三才図会蟲部訳註，昆虫界，Vol. XII, No. 121-122, 1955)．体長25-40mm．緑色部は方向により紫藍色となる．体下は金緑色，側方および腹端に向けて銅赤色を増し，腹端部は金銅色，まれに全体が鉄銹色を帯びる．エノキ，ケヤキ，サクラ，カシ類，カキ，クワ，ハリエンジュなどの枯木につく．大桃定洋・秋山黄洋は日本各地の本種をカラーで示されている(1997)．県下に広く分布している．場所によっては多く産するようである．蜂谷幸雄氏の教示では1997年神戸の烏原貯水池畔に多く飛翔しているのを見たとのこと．若干前の情報だが伊丹の坂根干氏からも伊丹市付近でも多く飛翔する光景に出会ったとのこと．

産地．洲本市三熊山[堀田, 1959]*，先山[堀田, 1976]．川辺郡猪名川町民田口，内馬場[仲田, 1978, 1982]，槻並(1ex., 2. VII. 1978)**．川西市笹

*[ ] 記録からの引用．記録は筆者著目録(1975, 1981, 1984, 1985)参照．

**( ) 筆者採集．標本は原則として県立人と自然の博物館保管．採集例の多いものは1例のみ掲げ他は etc. として省略する．



Chrysochroa fulgidissima (Schonherr, 1817)
タマムシ

Chalcophora japonica (Gory, 1840)
ウバタマムシ

ジョージ・ルイスが日本で採集したタマムシとウバタマムシ

写真のタマムシ，ウバタマムシはジョージ・ルイス(George Lewis)が日本から採集したものである(採集地名は不明，G. Lewis の第1回日本訪問1867-1872での採集品と考えられるので，Hyogo産のものかもしれない).

1992年日本甲虫学会で G. Lewis 顕彰として G. Lewis レリーフを製作，兵庫県立人と自然の博物館へ寄贈，その時パメラギルバート女史の尽力でルイス自身が日本で採集した甲虫18点が，大英博物館から日本甲虫学会経由兵庫県立人と自然の博物館へ寄贈された．そのうちのタマムシ，ウバタマムシである．撮影は人と自然の博物館の沢田佳久博士にお願いした．ここに厚く御礼申しあげる．

部[仲田, 1978]，緑町[藤富, 1995]．伊丹市[河上, 1984]．尼崎市西南部[新家, 1991]．宝塚市大原野，弥生町[伊藤, 1992]．西宮市角石町[芦田，1983]．Hiogo[Heyden, 1879]．神戸市御影[関, 1933]，六甲山(1♀, 15. VII. 1956)，烏原(1♂, 29. VIII. 1971, etc.)，藍那(1ex., 5. VI. 1978, etc.)，妙法寺(1ex., 14. IX. 1978)．明石市明石公園(1♂, 21. VI. 1975)．氷上郡[山本, 1958]．多紀郡篠山町，丹南町竜蔵寺[辻, 1970]．出石郡内町[高橋, 1975, 1982]，床尾山[高橋, 1963, 1982]．豊岡市神武山[高橋, 1975, 1982]．美方郡扇ノ山[辻, 1963, 1970，辻，岸田, 1970，高橋, 1982].

Genus *Chalcophora* Solier, 1833
ウバタマムシ属

2．*Chalcophora japonica* (Gory, 1840)
ウバタマムシ

体長24-40mm，金銅色ないし赤銅色，ときに緑色を帯びる．松類の枯枝につく．成虫越冬するものもあるとのこと．

兵庫県下に広く分布，普通に産する．

産地．津名郡常隆寺山(1ex., 20. IV. 1974)．洲本市安乎町[堀田, 1959, 1978]，三熊山[堀田, 1959]，先山[久松, 1974，堀田, 1976]，中河原町厚浜[藤富, 1995]．三原郡慶野松原(1ex., 26. V. 1983).

川辺郡猪名川町民田[仲田,1978,1982]. 川西市一の鳥居(2♂,17.VI.1953). 伊丹市[河上,1984]. 尼崎市西南部[新家,1991]. 宝塚市武田尾(1♀,25.VII.1954), 香合新田, 売布が丘[伊藤,1992]. 西宮市角石町[芦田.1983]. 神戸市御影[関,1933], 六甲山[柴内,中畔,1950](1♀,13.IX.1984), 二十渉(1ex.,26.VI.1955), 烏原(1ex.,23.VII.1972), 山の街(1♂,17.V.1951). 明石市明石公園(11 exs.,15.VI.1975,etc.). 小野市山田(1♀,18.VI.1987).加東郡社町三草(1ex.,6.VII.1989). 飾磨郡家島[上田,1981]. 相生市三濃山(1ex.,16.VI.1974). 多紀郡篠山町盃ヶ岳[辻,1970], 篠山町[辻,1970]. 氷上郡[山本,1958]. 出石郡出石町中野[高橋,1963,1982]. 城崎郡竹野切浜[高橋,1975,1982]. 養父郡氷の山(1ex.,27.VII.1956)[高橋,1982]. 美方郡扇ノ山[辻,1963, 辻,岸田,1972,高橋,1982], 浜坂(1ex.,17.X.1978).

Genus *Nipponobuprestis* Obenberger, 1942
マダラタマムシ属

3. *Nipponobuprestis amabilis* (Snellen van Vollenhoven, 1864) アオマダラタマムシ

体長16-29mm.

青緑色を帯び一般に痩形で, 上翅に各2個のまるい陥凹紋がある.

縦隆線は細く強く, 側縁の鋸歯状は強い. ときに橙色ないし赤色を帯びる. 6～7月頃見られる. サクラ, ツゲなどの枯枝につく. かつて水戸の偕楽園のツゲにこのアオマダラタマムシが多くいることを報告, その生態を紹介された記事があった(昆虫界 Vol.VII,No.59:57-63,1939).

そう多くないが県下には広く分布しているように思われる(特に海岸線近くに).

産地. 川西市笹部[仲田,1978,1982]. 宝塚市切畑, 売布神社[伊藤,1992]. 神戸市御影町[関,1933], 六甲山[矢野,竹中,1939], 烏原(1♀,17.VI.1981), 烏原貯水池畔ひよどり展望公園(1♂,26.VI.1997, U.Hachitani leg.), 北区藍那(1♂,26.V.1953), 有馬[東,1971]. 相生市三濃山(1ex.,1.VI.1974). 三田市香下[三木,1977]. 氷上郡神楽市島[山本,1958], 黒井[東,1971].

4. *Nipponobuprestis querceti* (Saunders, 1873)
クロマダラタマムシ

体長17-28mm. 一般に赤みを帯びるがまれに青緑色を帯び赤味のないものがいると. 上翅の縦隆脈は太く弱くやや不明瞭, 側縁部後方の鋸歯状は弱い. エノキの枯樹につくといわれているが兵庫県下での記録は大変少ない.

産地. 神戸市六甲山[矢野,竹中,1939, 柴内,中畔,1950]. 多紀郡篠山町[辻,1970]. 氷上郡神楽町[山本,1958].

Subfamily *Buprestinae* Lacordaire, 1857
タマムシ亜科

Genus *Ovalisia* Kerremans, 1900
クロホシタマムシ属

5. *Ovalisia virigata* (Motschulsky, 1859)
クロホシタマムシ

体長8-13mm. 緑ないし金緑色, まれに青色または橙色を帯びる. 背面の黒藍色紋は数多く, 個体変化が多い. ミズナラなどにつく.

兵庫県下では北部の低山地帯に広く分布しているようである.

産地. 川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田,1982]. 神戸市北区京地[斉藤,1996]. 豊岡市伊賀谷[高橋,1982], 奥岩井(1♂,19.VI.1986,Y.Hachitani leg.). 城崎郡香住[辻,1972, 黒沢,1976]. 養父郡八鹿町岩崎[佐藤,1997]. 温泉町桧尾(Hinokio), 村岡町相岡(Kebioka), 関宮町轟[谷角,足立,1985],扇ノ山[遠山,1978].

6. *Ovalista vivata* (Lewis, 1892)
マスダクロホシタマムシ

体長6-13mm. 緑ないし金緑色. ときに青または橙色を帯び, 全体赤橙色を帯びることもあるが反射光ではつねに全体緑色となり, 側縁部だけが赤色となることはない. スギ, ひのきなどにつく.

兵庫県下ではそう多く見られないが, 分布は広いのではと考えられる.

産地. 川西市, 笹部[仲田,1978,1982]. 宝塚市宝梅一丁目[小田中,1994]. 西宮市夙川[東,1971]. 神戸市有馬[東,1971.,小田中,1994]. 多可郡三谷

(1ex., 2. Ⅷ. 1975), 鳥羽(1♂, 5. Ⅷ. 1975, etc.). 氷上郡青垣町芦田[高橋, 1960, 1962]. 宍粟郡赤西[遠山, 1978]. 養父郡八鹿町岩崎[佐藤, 1997].

Genus *Descarpentriesina* Leraut, 1983
コモンタマムシ属

7. *Descarpentriesina chinensis yanoi* (Y. Kurosawa, 1963) ヤノコモンタマムシ

本種は黒沢良彦博士によって三重県産1♂に基づいて *Poecilonota yanoi* Y. Kurosawa として新種記載された(Bull. Nat. Sci. Mus. Vol. 6, No. 1, p. 90, 1962). その後黒沢良彦博士は *Poecilonota chinensis* Thery, 1926 の亜種と扱うのが良いとされた(甲虫ニュース, No. 8 : 2-3, 1970). その時「三重県」と称する模式標本以外に最近になって奈良市と神戸市有馬温泉でそれぞれ数頭ずつ採集されたとある. この有馬温泉で採集されたというのは誤りで, 当時三田学園高等学校1年生であった森 正人氏(北海道大学農学部卒業後現在環境科学株式会社勤務)が三田学園内のポプラ?の樹から採集した2♂1♀ということである(このあたりの経緯については森 正人氏の岳父ー故人ーにお願いして"きべりはむし"に発表していただいた. "Nol. 7, No. 2, p. 31-32, 1979").

その後兵庫県下では採集された記録が見られない. 全国的に見ても産地があまり知られていなかったが, 1994年岡山県赤磐郡山陽町と熊山町にまたがる新興住宅地の建築現場のヤマナラシ生木に止まっていた本種を採集したことがきっかけとなり, 以後同地周辺で多数が採集されたことで大きな話題となった(月刊むし, No. 281, 1994. 標本商でも取り扱っており, 案内が何回か送られて来た). 産地. 三田市三田学園[2♂1♀, 24. VI. 1966, M. Mori leg. 森, 1979, 黒沢, 1970, Some ex., Arima sp.].

Genus *Dicerca* Eschscholtz, 1829
フタオタマムシ属

8. *Dicerca tibialis* Lewis, 1893 トゲフタオタマムシ?

1980年11月8日, 田中 梓先生のお宅にお伺いして虫談に花を咲かしていた時(田中 梓, 神戸山手女子短期大学々長, 伊丹昆虫館長. ハエ目の専門家), 先生が神戸三中時代(現長田高校)高取山で採集されたタマムシが当時出版された"日本の甲虫", 第3巻, 第2号にカラー図版をつけて三輪勇四郎・中條道雄両博士著"本邦産タマムシ科の新種及稀種図説"の論文が発表されその9図に出ているタイワンフタオタマムシであったと. その後先生は台北帝国大学農学部に学ばれその標本も持参, 三輪勇四郎博士にお見せしたら是非何かに記録しておくようにと云われてそのままになっているというお話であった. 標本は勿論台湾に残されたまま帰国されている. 標本が見られないのでそれが真のタイワンフタオタマムシであったのかどうか良くわからない.

図版, 図鑑類等を見ていて標題のようにトゲフタオタマムシではないかとしたが, これはあくまでも予想であって意外と違った珍しい種であったのかもしれない. 夢のある種で此処では記録種として収録しておく(この種については本誌"Vol. 9, No. 1, p. 33, 1981"を参照頂きたい).
産地. 神戸市長田区高取山[田中 梓採集, 1930年代].

Genus *Buprestis* Linne, 1758
クロタマムシ属
Subgenus *Buprestis* Linne, 1758
(クロタマムシ亜属)

9. *Beprestis* (*Buprestis*) *haemorrhoidalis japanensis* E. Saunders, 1873 クロタマムシ

体長11-12mm. 黒色, 唐金色ないし銅色の光沢があるが, まれに緑色, 青色などを帯びる. マツ類, モミ類, エゾマツ類などの枯枝につく. 兵庫県下に広く普通に産する.
産地. 津名郡常隆寺山[堀田, 1978]. 洲本市安乎町[堀田, 1959], 中河原町厚浜[藤富, 1995]. 三原郡南淡町福良[堀田, 1978], 慶野松原(1ex., 26. V. 1983). 川西市笹部[仲田, 1978, 1982], 妙見山上[仲田, 1978, 1982]. 伊丹市[河上, 1984]. 尼崎市西南部[新家, 1991]. 宝塚市栄町[伊藤, 1992]. 西

宮市角石町[芦田,1983]. 神戸市御影[関,1933], 六甲山[矢野,竹中,1939], 烏原(1ex.,12.Ⅶ.1956, etc.), 山の街(1ex.,19.Ⅶ.1995). 美嚢郡吉川町(2exs.,26.Ⅶ.1985,etc.). 多可郡鳥羽(1ex.,19.Ⅶ.1975). 飾磨郡家島[上田,1981]. 多紀郡篠山町[辻,1970]. 氷上郡[山本,1958]. 出石郡出石町桐野[高橋,1963,1982]. 城崎郡鎧海岸[辻,1970]. 養父郡氷の山(1♂1♀,2.Ⅷ.1953,etc.)[高橋,1982]. 美方郡扇の山[辻,岸田,1972, 高橋,1982].

Subgenus *Stereosa* Casey, 1909
(アカヘリミドリタマムシ亜属)

10. *Buprestis* (*Stereosa*) *splendens niponica* Hoschecke, 1911 アカヘリミドリタマムシ

美しいタマムシである. 日本での産地はかなり限定されている. 本種については秋山黄洋, 大桃定洋, 関 草弘による詳しい解説がある(月刊むしNo.291:3-9,1995).

1997年, 三宅隆三氏により西宮で本種を得たとの連絡を受け, 兵庫県未記録だから発表をおすすめした結果, 月刊むしNo.319誌上に写真をそえて記録された. 食樹はアカマツとのこと.

産地. 西宮市古川町[三宅,1997].

11. *Buprestis lecontei* E. Saunders ベニオビクロタマムシ

松村松年博士が明石で採集された標本に基づいて三輪勇四郎・中條道夫両博士がベニオビクロヒメタマムシ *Buprestis unicus* Miwa et Chujo と記載された(Ent. World, Vol.3, No.17, p.272-273, pl.105, f.18,1935)種は北米産ベニオビクロタマムシ *Buprestis lecontei* W. Saunders であるとのこと(黒沢,1985). 黒沢良彦博士によれば, 太平洋岸地域から輸入される食葉樹などの木材に付着してやってくるようで, 一応記録種としておく.

産地. 明石市[松村採集, 年月不詳,1935].

12. *Buprestis* (*Cypriacis*) *aurulenta* Linne, 1758 アメリカヒメタマムシ

本種は矢野文彦・竹中英雄により灘区の宇野宅に飛来せるものを *Buprestis aurulenta niponica* Miwa et Chujo アカヘリミドリヒメタマムシとして記録されたもの(昆虫界 Vol.7, No.68:9, 1939)である. 尤も三輪勇四郎・中條道夫両博士により青森産で *Buprestis aurelenta niponica* Miwa et Chujo と新亜種記載された種がこれにあたる(昆虫界, Vol.3, No.17, p.273-274, fig.13, 1935). 黒沢良彦博士はこれらは異名として表記学名で示された(1985).

太平洋岸地域から輸入される針葉樹などの木材に付着して輸入されたものであろうと考えられ, 土着種ではないと思われるが次のように記録されている.

産地. 神戸市灘[1♂,5.Ⅴ.1935,Uno leg., 矢野・竹中,1939, 黒沢,1946].

Genus *Eurythyrea* Lacordaire, 1835
アオタマムシ属

13. *Eurythyrea tenuistriata* Lewis, 1892 アオタマムシ

明るい緑色. 上翅の両側は金色ないし金赤色, 会合部は青藍色を帯びるものが多いがまれに全体金銅色を帯びるものがある. マツ, モミ類などの針葉樹の枯材につく.

兵庫県下での記録は大変少ない.

産地. 宍粟郡赤西[辻,畑中,1973., 黒田,1984]. 養父郡氷の山[黒沢,1994].

Genus *Anthaxia* Eschscholtz, 1829
ヒメヒラタタマムシ属

14. *Anthaxia primorjensis* Obenberger, 1935 フチトリヒメヒラタタマムシ

やや青味を帯びた黒色ないし黒色. 前胸背板は緑ないし金紅色に縁取られ, 腹部背板両側の可視部分は金紅色, 体下は黒色.

本種は松村松年博士が札幌丸山で採集した標本に基づいてヒメヒラタタマムシ*A. proteus* E. Saunders, 1873 の変種として三輪勇四郎・中條道夫両博士によって美しいカラー図版をつけて記載(昆虫界 Vol.17, pl.1, p.276,1935)された var. *rubromarginata*, var. *viridomarginata* が共に全く違

った表記種に当たるとのこと．食樹としてコナラ，クヌギ，アベマキ，クリが示されている．

兵庫県下に記録は意外と少ない．龍野市神岡町にはわりといるようだ．

産地．川西市大和[仲田,1978,1982]．龍野市神岡町(2♂1♀,4.Ⅵ.1988，高橋,1989)．

15. *Anthaxia proteus* E. Saunders, 1873

ヒメヒラタタマムシ

体長 3-3.5mm．♂は全体緑色，光沢を欠く，ときに全体オリーブ色を帯びる．♀は暗色で大型．マツ類の枯枝につくがナラ，クヌギなどにつくこともあると．

兵庫県下にはごく普通に見られる種である．

産地．洲本市由良町[堀田,1973]，先山[堀田,1976]，安乎町[堀田,1978]．川辺郡猪名川町民田，上阿古谷[仲田,1978,1982]，能勢妙見山(1ex.,30.Ⅶ.1982)．伊丹市[河上,1984]，尼崎市西南部[新家,1991]．宝塚市玉瀬[伊藤,1992]．西宮市角石町[芦田,1983]，船坂(1ex.,5.Ⅵ.1987)．神戸市六甲山(矢野,竹中,1938)，二十渉(2exs.,26.Ⅵ.1955),烏原(1ex.,19.Ⅴ.1980,etc.)，藍那(1ex.,26.Ⅴ.1993,etc.)，山の街(1ex.,1.Ⅵ.1958)，金剛童子山(5exs.,24.Ⅵ.1956)，逢山峡(1ex.,1.Ⅶ.1986,etc.)，五社(2exs.,25.Ⅵ.1959)，八多町屏風(3exs.,4.Ⅵ.1993)．三木市口吉川(4exs.,3.Ⅶ.1986)．小野市山田(1ex.,18.Ⅵ.1987,etc.)，来住町(5exs.,30.Ⅴ.1991,etc.)．美嚢郡吉川町(3exs.,6.Ⅵ.1985)，奥山(2exs.,5.Ⅶ.1986)．加東郡東条町森(2exs.,22.Ⅵ.1984,etc.)，社町三草(2exs.,22.Ⅴ.1989,etc.)．飾磨郡家島[上田,1981]．龍野市神岡町(4exs.,4.Ⅵ.1988,etc)．揖保郡新宮町福原(1ex.,10.Ⅵ.1992)．相生市三濃山(1ex.,8.Ⅵ.1974)．宍粟郡水谷(1ex.,17.Ⅶ.1981)．多紀郡篠山町[辻,1970]，雨石山[林,1995]．氷上郡[山本,1958]，山南町(2exs.,5.Ⅶ.1990)．城崎郡日高町奈佐路(1ex.,25.Ⅴ.1986,etc.)．

Subfamily *Chrysobothrinae* Laporte et Gory, 1837

ムツボシタマムシ亜科

Genus *Chrysobothris* Eschscholtz, 1829

ムツボシタマムシ属

16. *Chrysobothris amurensis* Pic, 1904

アムールムツボシタマムシ

ムツボシタマムシによく似ていて混同されやすいが，前胸背板がほぼ矩形で前方に狭まることなく，側縁部が強く紅色に縁どられ，中央部の後半に紅色の縦条があり，上翅の点刻は不明瞭で間室は強くしわ状または顆粒状に隆まる点で区別されると(黒沢，1985)．

兵庫県下からは次の記録が知られているだけである．

産地．宍粟郡赤西[Akiyama & Ohmomo, 1979]．美方郡扇の山[Akiyama & Ohmomo, 1979]．

17. *Chrysobothris ohbayashi* Y. Kurosawa, 1948

オオムツボシタマムシ

体長14-20mm．青銅黒色，頭胸部が赤味を帯びることがある．クヌギ，カシ類などの枯材につく．兵庫県下での記録は少ない．

産地．神戸市北区京地[斉藤,1996]．姫路市青山[相馬,1997]．氷上郡市島[山本,1958]．養父郡八鹿町岩崎[佐藤,1997]．美方郡温泉町竹田[佐藤,1988]．

18. *Chrysobothris samurai* Obenberger, 1935

ツシマムツボシタマムシ

やや扁平，上翅の縦隆脈は４本で完全であるが隆起は弱い．前胸背板は横位の矩形で前方にややひろがる．ブナ科の枯枝につく．兵庫県には広く産するように思われるが，記録は少ない．

産地．猪名川町三草山[森,1993]，猪淵の南西，杉生新田[森,1992]．宝塚市香合新田[伊藤,1992]．多紀郡雨石山[林ら,1995]．宍粟郡波賀町戸倉[大平,1982]．美方郡温泉町蒲生峠[谷角,黒井,1986]．

19. *Chrysobothris succedema* E. Saunders, 1873

ムツボシタマムシ

体長7-12mm．体色は変化が多く紫黒色，銅紫色から青銅黒色まで変化する．種々の広葉樹，ときにマツ材の針葉樹の枯材または枯枝につく．兵庫県下には広く分布，やや普通に産する．

産地．洲本市先山[久松,1974]．川辺郡猪名川町民田[仲田,1978]．川西市笹部，畦野，横地[仲田,1978,1982]．伊丹市[河上,1984]．宝塚市大峰山，売布が丘[伊藤,1992]．西宮市角石町[芦田,1983]．神戸市六甲山[矢野,竹中,1938]，烏原(1ex.,24.VI.1982)，藍那(1ex.,19.VI.1978,etc.)．氷上郡柏原[山本,1958]．養父郡氷の山[辻,1970，高橋,1982],八鹿町岩崎[佐藤,1997]．美方郡扇の山[辻,1963,1970，辻・岸田,1982，高橋,1982].

(兵庫県甲虫相資料・345)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

拙著"日本に産するコガネムシ類の分類目録"に追加すべき日本産のコガネムシ

高橋 寿郎

最近，三宅義一氏から多数のコガネムシに関する文献別冊の御恵送に預かった．その中で拙著"日本に産するコガネムシ類の分類目録"(きべりはむしVol.25,No.3,特別号,1997)に追加すべき日本産コガネムシが次のごとくあったので，此処に報告しておく．

貴重な論文別冊を御恵与下さった三宅義一氏に厚くお礼申しあげる．

Trox uenoi matsumurai Y.Miyake et Yamaya,1995
オキナワコブスジコガネ

Bull. Nagaoka Mun. Sci. Museum, (30):31-32, Figs.1&7, 1995.

Holotype : ♂, Kunigami Son, Kunigami-Gun, Okinawa Is., Ryukyus 21.V.1994. M.Matsumura leg.

paratypes : 1♂, Ie Rindo, Kumigami Son, Okinawa Is., 3.VII.1993, M.Kubota leg., 3♂♂,1♀, same data as the holotype.

Maladera imasakai Y.Miyake et Yamaya,1995
ヤンバルビロウドコガネ

Bull. Nagaoka Mun. Sci. Museum (30):34-35, Figs.3&10, 1995.

Holotype : 1♂, Ie Rindo, Kunigami, Northern part of Okinawa Is., 25.VII.1993, M.Kubota leg.

paratypes : 9♂♂,4♀♀, Terukubidake, Okinawa Is.,19.VII.1976 : 1♂, 20.VII.1976, Y.Kusui leg (in coll. Kusui).

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

上郡町でオオセンチコガネを採集

高島 昭

赤穂郡上郡町でオオセンチコガネが、本会会員の蛭田永規氏により採集されているので報告しておく。

上郡町上郡 21.IV.1998 1♂ 蛭田永規採集

本種は、高橋(1996)によると兵庫県下各地に分布し、西播地方では相生市三濃山でも採集されているという。今回の記録は上郡町の中心地付近での記録であり、周辺の既知産地は前述の三濃山である。採集した個体は、県上郡総合庁舎北側の県道上を歩行中であったといい、おそらく前夜、灯火に飛来したものであろうと推測されるが、三濃山とはかなりの距離(直線距離で約9km)があり、近隣の山を含め当地域では広く分布していると考えられる。今後も注意して観察したい。なお、採集データと個体を提供いただいた蛭田氏には御礼申し上げる。

<参考文献>
高橋寿郎(1996) オオセンチコガネとセンチコガネ きべりはむし24(1):7-13.

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)